世界屋

こおはくし 并二

詞を名とをる

[v.16]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 16
copy 1
Asian
Japan
Case

2004551302

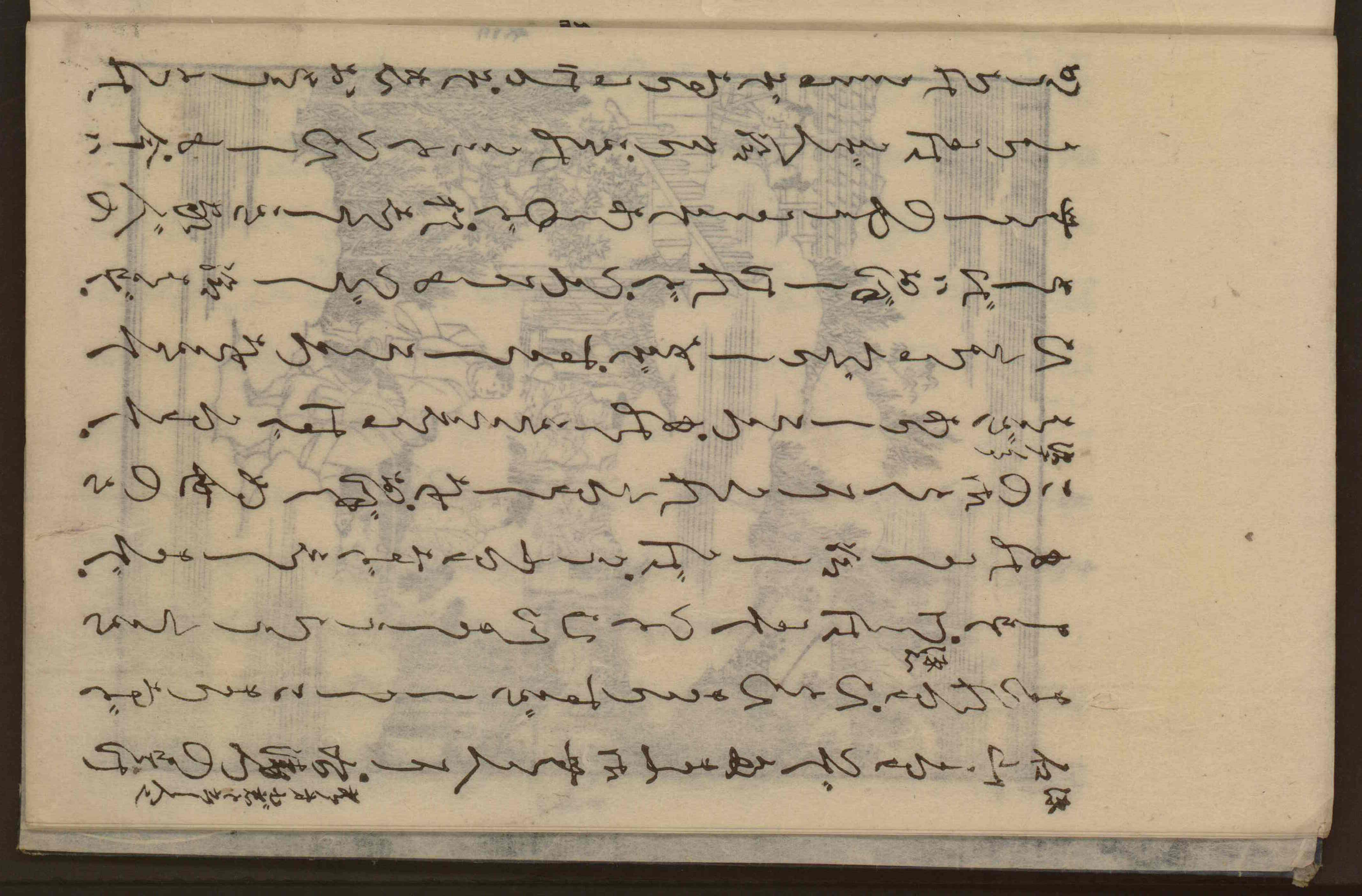
源坎八戈九月嶋ノ石山詣ニ事

伊与のまけといひしは、こ院（桐ヶ谷門）うれさきなて、又ゑ
としひたちまなりてくだりしかば、かれ（京師ニ）もしらぬこゝも
いざなきれまなり、ずまれ（京師ニ）は接（こぶ）ねもちろうまなく
て、人きれずさやまとてぬましもあらざりし
かど、つゝへ字ゆべきよすがごまなくて、つくれの
山をゆきて寺風もうきたる心ちして、いさゝかれ
つゝへごまなくて、年月かきなりてかなり、（源）うぎ
れうこともなりし、は接ねなれど、京まかへ里
すまなて、又のとしの秋ぞひ（いよのかみす）たちはのぼりけり、関（せき）
いり日きも、この（源）飯石山は、は乳（ぐりん）もたしまうで
給なり、京よりかれきれかきなどいひしことも、

むかへまきらん人ぐ。この夜(添)くまうで給べしと
つげれば。こち(いよあがん)のほどさはがしうまゐんもれぞと
て。まぐあひさよりいそぎけるを。女車おほく
所さうゆりぎくるに日こけぬ。うちいでのち夜ふる
ほどに。夜(添)はあまる山こえぬとて。れぞんの人ぐこ
ちもさりあへずきらんぬれば。おほ(ノ)さ山にこれ(いよの外ノ者)おり
ぬて。こゝかしこの枝のしたに。車どもうきおろし。
まがれにゐりしこまりてすぐしなか。くる夜
などかへはとくらし。さきにしてなどしたれど。
れかいひろくこゑ。車十ぢうりぞ。袖ぐちものゝ色
あひなどもまり出てそしらる。ね(添ん)中びぞよしまて。

秋宮(さいくう)のれんぐりなまぞやうのおりのもれこぐる波
笑し出ろ。夜(源)もうく世まさん出給先げくし
さまかずもなきれ前(ごぜん)どもこれめとぐめたり。九月
けごもりなれば。紅葉(もうぢ)の色(いろく)こうさまぞ。霜(しも)がれの草(くさ)
ひらくおりしうこしけたるま。きき山(やイ)よりもざと
くづれ出たる。猿(ぞ)すぐるだの。色々のあをのつきぐ
しきぬひ地。くゝ里深(ぞめ)のさ波もさうくるまおりしう
うも。れ車(源)はすぐれおろしめて。かれむりしのこ君(いよのゆとのがつこ)。
いまは名湊(むもん)のすけなるをめしよをて。望(源詞)ふ乃れ
関(せき)むかへはえちひとて給ひじなどの給れこころの
うちいとあれはおぼし出ることおほかれど。

都ぞうまてかひなし。女も人をれずむりしのと
ますれねがとり返してまれあれなり
ゆくとくとをきとめぐるこまちまぶをやゑ
えぬ志水と人はうるんえ志り給りじりしとれ
もふまいとかひなし



右近のぞうとけて。れともまくぐりしをぞ。とゝ
ひきてなしいで。給かれど。それまぞこれもおもひ
しりて。などてすくしも世にしるがふうろをつゝひ
けんなどせひ出けり。（古濃）とけめしまきて。れ（源）をうそこ
あり。今（古濃ハ）はぬぼし。こゝぬべきことを。うろなぐくもおハ
すゝれとせねゝ。一日（矢ノ詞）もちぐりしられしを。
さはぬぼししりけんや
（源）且くしちまゆさあふうぢをこれこしも行かひ
なしやしほなしぬうこ。関（せき）もり（いまれ外を云ふ）のさもうしやましく。
めぐ面しかりしかれとあり。（源詞）どし。此乃とぐうえを
うねくしく成まかれど。心まはいれとなく。ぐぐ今の

心ちすりなしひまなんずきぐしういとぐまを
まれむやとてぬへれば（右漢ん）くしげなくてもていき
てなを（詞）きてしぬへ若まはもうしおぼしのくと
あんとむぬふりまおなじやうなれれこころのな
ひりしさなんいとゞありがたきすきひことぞよう
なきことゝおもへどえこそすくよりまきてしへ
さる女にてハまけ写しぬへんまつゝゆりされぬ
べしなどいふ（実ん）今ハましていとゝづしうよろ川の
ことうぬくしき心ちすれどめづしきまやえ
しれぞれざりけん
（実）あふさかれ関（せき）やいかなりきさなれバしげき（なげき）歎の

なり代りくらん。夢のやうにあるんとさえしたり。
あれ（添ん）もつくさもすれぬふしとおぼしをれ
たり人なれバおりくハちをのこまひうごくなり。
かゝりほどにこのひたち（いよのかみ）のりんおいのけもなりて
やなやましうのこして。地（いよのかみ）こころぼせかるをれど。
子どもに。ただ（詞）この君（添）のけことをのこいひなきて。
よろづのことにたぐこの此（添ノ）こころにのこまりをて。ひが
ありつゝ世にかくしてとりまつれとのこ明られ
いひかり女（元ん）ごとこころうきすくきをそて。この人（いよのかみ）り
さへなられていかなりさ夜にもぶれまどふべき
にかあんと。せひなげきぬふをこうり（いよのかみ）。命（いのち）乃

かぎりあり抽なれば。おしことにむべきかたなし。
いでゝ此人(宣)の所にあるは。のうしをとゝむしおを
がれ。けが子どものこゝろもしらぬをとゝうしろめたう
なるしきことはいひおもへど。こゝろはえとゞめぬ
抽にてうきぬ。しぞしこそさの(いよの外ノ)たまひしもれを
なぐ(子どもノ)なさけ。けれどうきべこそあれ。つきこと
おほかりとあるもかゝるもせのことゝなれど。
(宣ん)身ひとけのうきことまてなげきあしくすゝ。こゝ
このうち(紀守る)のゝのミぞむかしよりすき心ありて。
すこしなさけがりけり。(紀守詞)おもれはの(いよの外)給をきしを。
(ゲ)数なしずとも。そしうとまでの給ませよなど。つい

そうしたりて、いとあさましき心のこしかれば（充ん）ぞさ
すくをあり月まで、かくいさとまりてもてくハ。
めづらしきことぐもをきゝそふりれと、人しれぞ
おもひしりて、人まさるんともしらせで、おもる
なりまかりおる人ぐいふりひなしとしひなげく。
（紀守ん）うこもいとゆしうを（詞）のれをいとひこまふほどる。
のそりのれこともひハ御ほく抱しぬふんいりでゝ
もぐしのべきなどぞおいなれましらやなど
ぞ侍めり

69038
6 AP78.